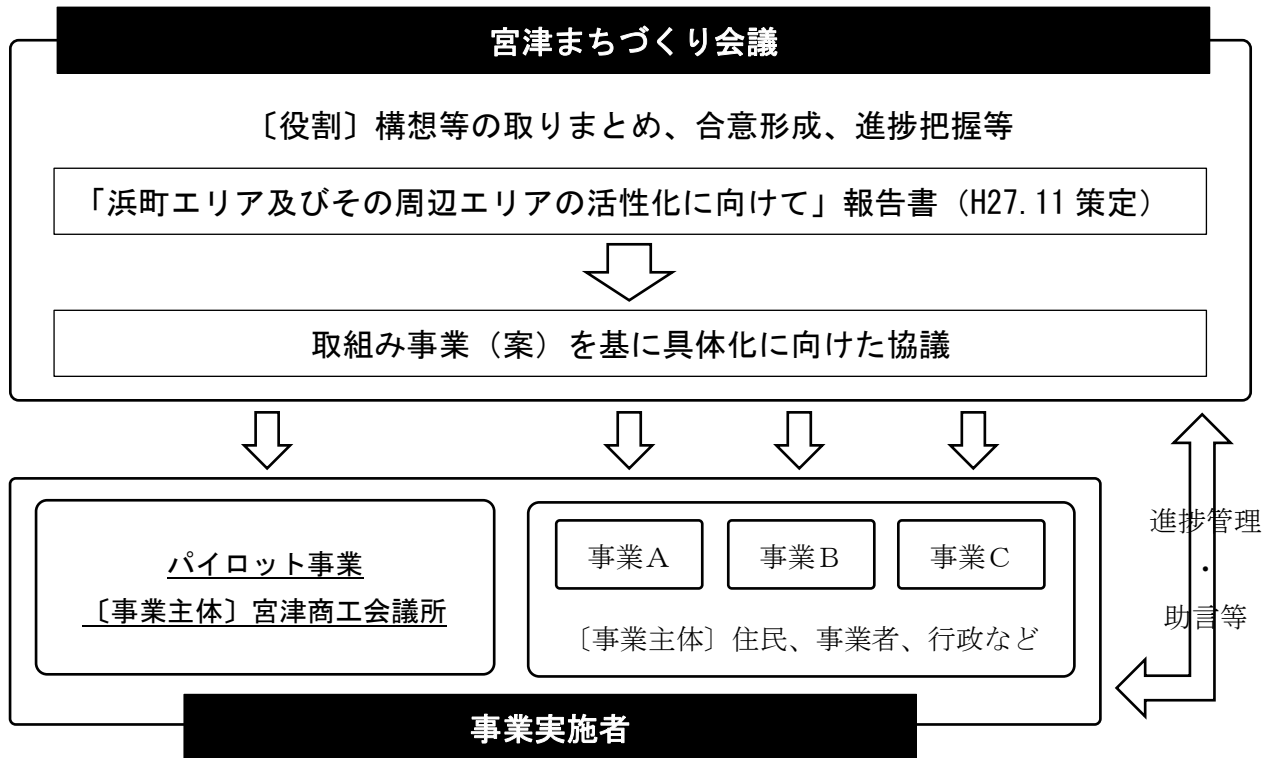


平成 28 年度 宮津まちづくり会議 事業報告について

平成 27 年度、当会において取りまとめられた「浜町エリア及びその周辺エリアの活性化に向けて」報告書の取組み事業（案）を基に、関係者とさらなる検討を加え、各事業の事業化・具体化の促進、進捗状況の把握等を行いました。

〔役割分担図〕



※上記スキームは、第 11 回宮津まちづくり会議において承認事項

1 会議等の開催

(1) 宮津まちづくり会議の開催

日時	内容
第 12 回宮津まちづくり会議 〔平成 28 年 5 月 23 日 (月)〕	<協議事項> ○平成 27 年度事業報告について ○平成 28 年度事業計画について ○地域振興拠点の具体化について <報告事項> ○委員の変更について
第 13 回宮津まちづくり会議 〔平成 28 年 10 月 21 日 (金)〕	<協議事項> ○地域振興拠点に関する会議所事業パートナーについて ○宮津市への要望事項について <報告事項> ○委員の変更について ○最近の道の駅の取組みについて

(2) 先進地視察の開催

日時	内容
先進地視察 〔日時：平成 29 年 3 月 8 日 (水) / 場所：道の駅笠岡ベ イファーム (岡山県笠岡市)〕	○目的：戦略的販促方法や集客方法等の意見交換会及び施設見学 ○参加者数：26 人



(3) 要望書の提出

○平成 28 年 10 月に、宮津市へ「島崎公園のリニューアルにおける要望書」を提出。

2 浜町エリアの検討

(1) 地域振興拠点の実現に向けた検討

1) 地域振興拠点の事業計画の策定

<事業計画に向けた検討>

[検討経緯]

○平成 27 年度に取りまとめられた「浜町エリア及びその周辺エリアの活性化に向けて」報告書を基に、地域振興拠点の第一弾として、取組みやすい再開発用地を活用し、既存の農産物等直売所機能と連携した店舗（物販（特に鮮魚）・飲食店を中心としたコンテンツ）を整備することで方向性が固まり、民間事業者の活力を活かし、施設の設計から事業計画、管理・運営までの事業計画提案を募集する方向で承認を受け、詳細な手法は会議所において調整をしていた。

○その後、委員の皆様、各関係者と協議したところ、運営手法について、会議所が求める事業者が応募する可能性が低いことが判明したため、事業スピードを低下させないためにも最適な手法を再度検討した。

○協議の結果、一昨年の経営マネージャーを募集した時点から、浜町エリアの周辺環境が大きく変化（道の駅登録、公共施設の移転）していることもあり、まずは3年程度、会議所として地域振興拠点の具体化に向けたパイロット事業に取組み地域振興拠点の実現につなげていくとともに、集客のために道の駅全体のマネジメントが最善であると判断した。

[具体化に向けた事業手法]

○地域振興拠点具体化に向けたパイロット事業の実施にあたり、会議所と一緒に賑わい創出に取り組む「事業パートナー」を選定した。

【事業パートナー】

会社名	ハマカゼプロジェクト株式会社	
代表取締役	坂本 亮	
会社の主な業務内容	地方創生コンサルティング業務 店舗・カルチャースクールの企画・運営 不動産活用事業	

(2) 先進地視察の開催

日時	内容
先進地視察 〔日時：平成 29 年 3 月 8 日 (水) / 場所：道の駅笠岡ベ イファーム (岡山県笠岡市)〕	○目的：戦略的販促方法や集 客方法等の意見交換 会及び施設見学 ○参加者数：26 人



(3) 要望書の提出

○平成 28 年 10 月に、宮津市へ「島崎公園のリニューアルにおける要望書」を提出。

2 浜町エリアの検討

(1) 地域振興拠点の実現に向けた検討

1) 地域振興拠点の事業計画の策定

<事業計画に向けた検討>

[検討経緯]

○平成 27 年度に取りまとめられた「浜町エリア及びその周辺エリアの活性化に向けて」報告書を基に、地域振興拠点の第一弾として、取り組みやすい再開発用地を活用し、既存の農産物等直売所機能と連携した店舗（物販（特に鮮魚）・飲食店を中心としたコンテンツ）を整備することで方向性が固まり、民間事業者の活力を活かし、施設の設計から事業計画、管理・運営までの事業計画提案を募集する方向で承認を受け、詳細な手法は会議所において調整をしていた。

○その後、委員の皆様、各関係者と協議したところ、運営手法について、会議所が求める事業者が応募する可能性が低いことが判明したため、事業スピードを低下させないためにも最適な手法を再度検討した。

○協議の結果、一昨年の経営マネージャーを募集した時点から、浜町エリアの周辺環境が大きく変化（道の駅登録、公共施設の移転）していることもあり、まずは3年程度、会議所として地域振興拠点の具体化に向けたパイロット事業に組み込み地域振興拠点の実現につなげていくとともに、集客のために道の駅全体のマネジメントが最善であると判断した。

[具体化に向けた事業手法]

○地域振興拠点具体化に向けたパイロット事業の実施にあたり、会議所と一緒に賑わい創出に取り組む「事業パートナー」を選定した。

【事業パートナー】

会社名	ハマカゼプロジェクト株式会社	
代表取締役	坂本 亮	
会社の主な業務内容	地方創生コンサルティング業務 店舗・カルチャースクールの企画・運営 不動産活用事業	

2) 地域振興拠点の事業計画の具現化に向けた取組み【会議所事業】

①浜町エリアに関するマーケティング調査の実施

調査期間	平成 29 年 2 月 1 日（水）～平成 29 年 3 月 27 日（月）
調査内容	パイロット事業施設等の開業準備と併せて、浜町エリアの平日・休日の 顕在マーケットに対するマーケティングリサーチ及び分析を実施。 ・観光交流センター及び宮津まごころ市の来訪者に対する動向調査 ・宮津市観光交流センター立体駐車場及び平面駐車場利用者の台数調査 等

※調査結果は参考資料 1 のとおり

②パイロット事業施設開業準備事業の実施

〔主な実施内容〕

- 施設全体及び各店舗コンセプトの策定
 - ・『海の京都の台所』をパイロット施設全体及び各店舗のコンセプトとし、宮津産を中心とした丹後エリアの旬の食材で、「買う」「食べる」「体験する」が一体となって提供できる店舗とする。
- 宮津市と施設外観デザイン及び施設内レイアウトの調整
 - ・施設外観は景観を配慮し、施設内は 1/3 をテナントスペース、残りを直営店舗スペース、かつ共同の飲食スペースを設けたレイアウトを想定し宮津市と調整を行った。
- 事業戦略・事業計画の策定
 - ・平成 29 年 2 月から 3 月に実施したマーケティング調査業務の結果を基に、「海の京都の台所」をコンセプトに事業戦略等を策定した。
- テナントの募集及び選定（出店条件交渉、契約、出店準備サポートなど）
 - ・平成 29 年 2 月中旬から 3 月上旬までテナント募集を行い、市内の鮮魚店 1 店舗を優先交渉者として決定した。
 - ・決定後は、随時、ミーティングを行い、詳細な店舗レイアウトや販売方法などの協議を行った。
- 直営店の取扱い品目の選定、仕入先の開拓、必要機材の購入
 - ・直営店舗の厨房の必要機材を選定した。
 - ・直営店舗で取り扱う飲食メニュー、物販品については、市内及び丹後全域のアイテムを中心に検討した。
- 直営店の人材募集の調整
 - ・人材募集については、ハローワークや京都府北部の求人媒体、SNS などを活用して募集を行った。

③観光交流センター立体駐車場空店舗区画活用事業

〔主な実施内容〕

○具体的な利用方法の策定



- ・地域振興拠点の具体化に向けた第一歩であるパイロット事業施設の開業と併せて、当該場所も地域振興拠点の具体化に向けた1つの集客コンテンツに位置づけ、地域住民と連携した賑わい創出、起業及び人材育成等を目的としたシェアスペースとして活用する。

事業コンセプト	店舗区画を「シェアキッチン」として、日替わりで希望者に貸し出し「つながり」を生み出すことや、宮津の食文化や新たなビジネスが発信される場所とする。
利用開始時期	H29.6以降
想定利用シーン (ターゲット)	○飲食店の開業を希望する方（新規、試営業、期間・曜日限定営業等） ○高校生や大学生の成果の発表の場や地域住民のサークル活動の場等として


(2) 道の駅機能の強化

1) 宮津満腹祭等の開催

①宮津満腹祭

日時	内容
<p>海の京都の台所 宮津満腹祭 〔日時：平成 28 年 5 月 3 日 (火・祝) 9 時～15 時／場所： 宮津まごころ市周辺〕</p>	<p>○目的：大型連休における来場者の居住地や消費動向調査 宮津産農水産物の販売及び飲食メニューの提供</p> <p>○出店者数：12 店舗 ○来場者数：約 1,500 人</p> 
<p>海の京都の台所 冬の宮津満腹祭 ～日本三景カキ食べ比べ～ 〔日時：平成 29 年 1 月 29 日(日) 10 時～14 時／場所：観光交流センター立体駐車場周辺〕</p>	<p>○目的：日本三景カキ及び宮津の「食」をメインとした店舗展開</p> <p>○出店者数：10 店舗 ○来場者数：約 1,500 人</p> 

②連携企画

日時	内容
<p>満腹 night ＜宮津まごころ市運営組合主催＞ 〔日時：平成 28 年 7 月 16 日(土) 17 時～21 時／場所：宮津まごころ市周辺〕</p>	<p>○テーマ：夜の賑わい創出</p> <p>○出店者数：5 店舗 ○来場者数：約 200 人</p> 
<p>第 2 回海の京都グルメ合戦 ＜宮津商工会議所青年部主催＞ 〔日時：平成 28 年 10 月 30 日 (日) 9 時～15 時／場所：観光交流センター立体駐車場周辺〕</p>	<p>○テーマ：海の京都エリアの「食」(ご当地グルメ)メインのメニュー提供</p> <p>○出店者数：19 店舗 ○来場者数：約 10,000 人</p>

2) 農水商工観連携会議との連携

○農水商工観連携会議の事業の一環として開発された土産物を道の駅で販売すると共に、商品アイテム数の強化を図った。



<へしこちりめん（山椒・青しそ・わかめ味）>

事業者：浜文商店



<小鯨の佃煮>

事業者：きざき

3) 観光交流センター多目的広場の活用

○出店数が年間 105 件にのぼり、そのうち継続的に出店していた店舗が 12 月に新浜地区へ出店することとなった。

3 浜町周辺エリアの検討

(1) 報告書の内容の深堀、事業展開への協議

○商店街関係者との意見交換

・パイロット事業施設の開業を控え、浜町エリアと浜町周辺エリアが連携し市街地の活性化を図るため、下記のとおり意見交換会を開催した。

日時	内容
浜町周辺エリアの活性化に向けた意見交換会 〔日時:平成 29 年 2 月 9 日(木) /場所:宮津商工会議所〕	<協議事項> ○パイロット事業施設の進捗状況について ○中心市街地の活性化に向けた事業(案)について

(2) 浜町周辺エリアに関する調査

○道の駅登録後の周辺飲食店への波及効果調査

調査期間	平成 29 年 1 月～平成 29 年 3 月
調査内容	今後の市街地活性化に向けた事業の実施に向け、客層、来客数及び売上の変化について商店街事業者への聞き取り調査を実施。
調査事業所数	14 事業所

※調査結果は参考資料 2 のとおり

4 広報・宣伝に関すること

○会議における議論や賑わい企画などを広く周知するため、会議所 HP や Facebook 等を活用し、市内外に広く発信。



宮津商工会議所 HP



宮津満腹祭 Facebook

平成 29 年度 宮津まちづくり会議 事業計画について

1 事業の目的

平成 27 年度、当会において取りまとめられた「浜町エリア及びその周辺エリアの活性化に向けて」報告書（以下「報告書」とする。）の取組み事業（案）を基に、関係者とさらなる検討を加え、各事業の事業化・具体化を促進し、フォローアップや進捗把握等を行っていく。

特に今年度は、中心市街地の核となる浜町エリアの事業が着実に実施されるよう官民連携して一体的な事業推進に努めていく。

〔当会の役割〕 構想等の取りまとめ、合意形成、進捗把握等

2 事業の内容

(1) 会議の開催

報告書に掲載されている事業計画の着実な実施や活性化に向けて、意見調整や進捗管理、事業の推進等の総合的な調整を行う。（浜町エリア：中心市街地の「核（拠点）」、浜町周辺エリア：浜町エリア～宮津駅前エリアを結ぶ L 字型ゾーンをリード地域）

(2) 浜町エリアに関すること

①パイロット事業の事業促進及び進捗管理

地域振興拠点の具体化に向け、事業主体である宮津商工会議所及びその事業パートナーが事業展開するパイロット事業の事業促進及び進捗管理を行う。

〔パイロット事業（事業主体：宮津商工会議所）〕

- ・パイロット事業施設の開業及び運営（宮津まごころ市国道側の新施設）
- ・観光交流センター立体駐車場空店舗区画の活用（シェアスペースの運営）
- ・宮津まごころ市との連携（集客事業、販促事業など）

②道の駅機能の強化

上記の事業と併せて、地域振興拠点の核となる道の駅の魅力を高めるために、宮津市・農水商工観連携会議等と連携し、道の駅の機能強化（ソフト面）を図っていく。

(3) 浜町周辺エリアに関すること

平成 27 年度に策定した報告書に掲載されている事業を基に、まずは浜町エリアから宮津駅前エリアの L 字型ゾーンを中心に、賑わい・集客の点を生み出していく。

〔主な事業〕

- ・報告書の内容の深堀、事業展開への協議（商店街と意見交換会等の実施）
- ・農水商工観連携会議事業との連携（L 字型ゾーンを中心とした回遊性の向上）
- ・浜町周辺エリアへの波及効果に関する調査 など

(4) 広報・宣伝に関すること

(1) ～ (3) の活動や農水商工観連携会議事業等を、メディアや広告媒体、会議所 HP、SNS 等を活用し、市内外へ積極的な周知を行う。